

新資材等を活用した都市軟弱野菜の省農薬・高品質生産技術の開発

1 中核機関・研究総括者

(財) 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター 川村 眞次

2 研究期間

2006～2008 年度（3 年間）

3 研究目的

都市農業地域では、安全な農産物を求める消費者と、農薬が使用しにくい生産環境にある農業者の双方から、できるだけ農薬を使わずに高品質な野菜を生産する技術体系の開発が強く要望されている。また、ポジティブリスト制度の導入に対応するためドリフト防止等の技術開発も急がれている。

そこで、新資材等を用いた物理的手法を主体とする総合的病虫害防除技術とドリフト回避技術を開発し、現地実証を通じて速やかに生産現場に普及する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 新資材等を組み合わせた軟弱野菜の省農薬・高品質・高付加価値生産体系の開発（東京都農林総合研究センター、神奈川県農業技術センター、千葉県農業総合研究センター、埼玉県農林総合研究センター、(独) 野菜茶業研究所、MKV プラテック（株））

近紫外線除去フィルム、スーパーソフトネット、防虫ネット、光反射シートなど個別並びに組み合わせにより、実用的で効果的な虫害対策と品質向上技術を開発する。

- ② 使用農薬の限定やドリフト抑制による安全な軟弱野菜の生産体系の確立（東京都農林総合研究センター）

使用農薬を限定した効果的な栽培技術の実証とイムノアッセイ法を確立する。また、ドリフトが懸念される多品目栽培における実態解明と、回避技術を開発する。

- ③ 物理的手法を主体とする軟弱野菜の病虫害防除技術の開発（神奈川県農業技術センター、千葉県農業総合研究センター、(独) 野菜茶業研究所、(独) 中央農業総合研究センター）

熱水・太陽熱・土壌還元等で、低コストかつ効果的な土壌消毒を、トンネル密閉の「蒸し込み」処理で、害虫防除技術を開発する。また、送風式捕虫機を開発する。

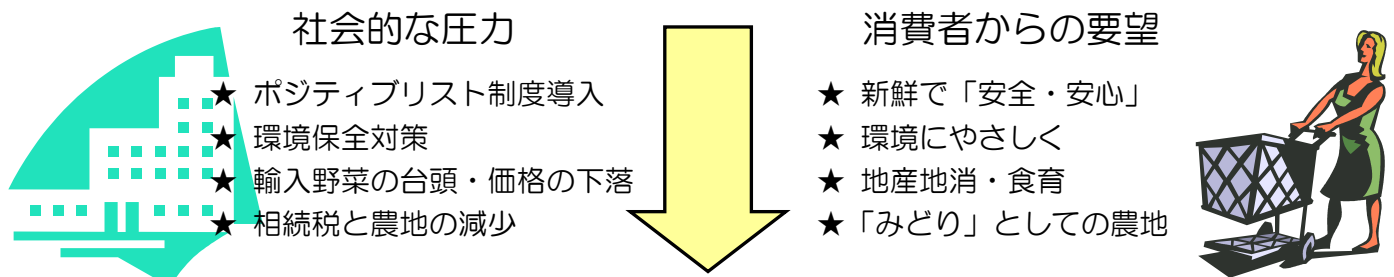
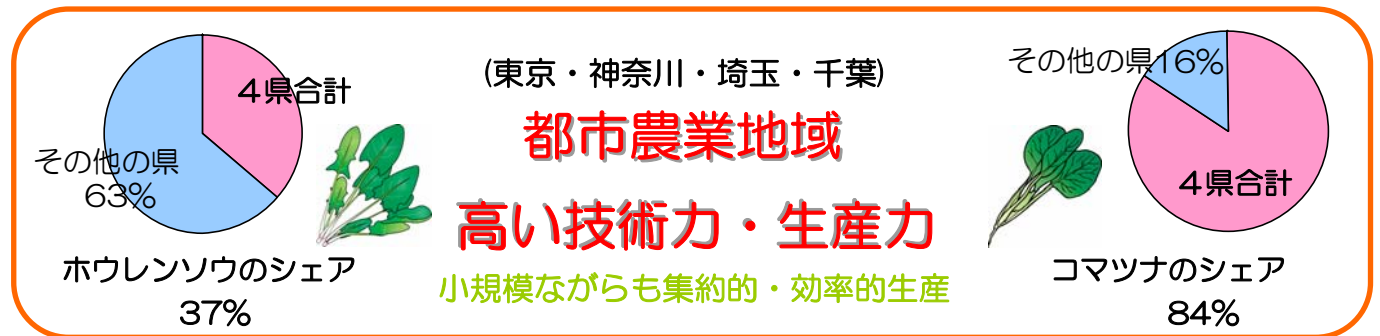
- ④ 軟弱野菜栽培での省農薬・高品質生産技術の体系化と経営評価（東京都農林総合研究センター、神奈川県農業技術センター）

開発した技術の組み合わせにより、低コストで効果的な病虫害防除技術を体系化するとともに経営評価を行う。

5 目標とする成果

これらの技術開発と普及により、安全で高品質な軟弱野菜の生産が可能となり、都市農業の持続的な維持発展が図れる。更に、安全な農産物を生産する農業者の姿勢・努力に対する都市住民の理解が深まり、消費者からの支持が得られる。また、安全・安心で高品質な農産物を提供することにより、消費者の国内農産物への信頼が高まり、地産地消を活発化させ、ひいては国内農産物の自給率向上に貢献できる。

新資材等を活用した都市軟弱野菜の省農薬・高品質生産技術の開発



都市農業地域における「安全・安心」高付加価値野菜の安定生産技術

